

公表:令和4年3月30日

職員数 30名 回収数 24件 割合 80%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善 内容又は改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	18	4	2	・活動内容等によって棚の配置を変えて、広さを確保するように工夫している。	・個別支援ができるスペースがないため、今後工夫してスペースを確保したい。
	② 職員の配置数は適切であるか	9	11	4	・職員配置は配置基準を上回って配置している。利用児童の特性によってはマンツーマン支援ができるように各クラスで職員配置を工夫しながら支援を行っている。 ・職員が前もってわかる休みは職員の補充を行い、できる限り日常の職員配置が変わらないよう互いに声をかけ合いながら出勤をしている。	・安定的な職員体制の維持のため職員補充を今後も検討していく必要がある。特性によってはマンツーマン支援が必要となるため、常に人手不足に感じている状況を他施設の状況などを見学等を行い、検討していきたい。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	9	9	6	・ホワイトボードに一日の流れを示したり、視覚支援を行っている。朝の身支度や排泄なども導線をわかりやすくすることや視覚的にわかりやすい工夫をしている。 ・建物が古く、バリアフリー化や機能的な住空間とは言えないが、できる限りの工夫し安全に活動できるように職員が常に配慮をしている。	・建物が老朽化しており、特性に応じた設計になっていないが、人的工夫で使用している。 ・今後もヒヤリハットから上がってきた内容を検討し、さらなる工夫を重ねていきたい。 ・モバイルツールを用いて、さらに職員間の情報伝達や全体職員の情報交換を実施していきたい。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9	10	5	・建物の老朽化により、様々な問題点はあるが、ごみや食べこぼしなどが落ちている時はすぐに拾って捨て、水で濡れている時などはすぐに拭くなど清潔な環境を維持できるように心掛けている。 ・子ども達の状態に合わせて、各クラスで環境設定を話し合い遊びのスペースと食事スペースを分けるなどの工夫をしている。	・建物の老朽化により隙間から砂埃が入るなどがみられるが、常に職員が床を拭くなどの対応をしている。今後できる限り清潔で心地よく過ごせる環境整備の維持を行う。
⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	13	9	2	・児童発達管理責任者、クラス主任を中心に各児童の個別支援計画の確認、クラス毎にその日の活動状況の報告を行っている。 ・適切な支援の確認のため、それぞれの業務の役割分担を確認し、必要に応じて修正を行っている。	・振り返りから支援技術の確認や次に生かす支援方法について、検討できるようにしていきたい。 ・児童発達管理責任者、クラス主任を中心に個別支援計画の立案、実行、モニタリング、再計画を行い、日々の支援の振り返りを個別支援計画に基づいて支援ができてきているか確認を行ってきたい。	
⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	18	4	2	・保護者向け評価表の実施、定期的な保護者面談、送迎時の対応、連絡帳、LINE等で保護者の意向を把握するように努めている。	・職員間の伝達がスムーズに行かないことがあったため、職員間の報連相を徹底し、情報伝達方法の工夫を重ねていきたい。	

公表:令和4年3月30日

職員数 30名 回収数 24件 割合 80%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	18	6		・自己評価を行い、ホームページで公開している。	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	8	13	3		・外部評価は未実施である。今後は外部からの評価を検討していきたい。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	21	3		・虐待、幼児期の発達の理解、支援技術、障害の理解、防犯防災などの年間計画を立て、毎月研修を行っている。また経験年数、役職ごとに外部研修に参加し各職員のスキルの向上に努めている。	・職員から研修内容の希望を募り、タイムリーな研修計画を企画し、それぞれの支援技術の向上を図りたい。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	22	1	1	・保護者からの聞き取りや担当職員を中心に項目に沿ってアセスメントを行っている。 ・一人の偏った見解にならないように担当者会議などで各職員の意見を聞くなどの工夫をしている。	・アセスメントが一職員の偏った意見にならないように、日々の記録から抜粋するなどきめ細かいアセスメントができるようにして行く。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	14	9	1	・心理検査を用いて、適切にアセスメントしている。 ・心理の発達検査を職員全員で共有している。	・聞き取り式の標準化された発達質問紙を用いて客観的なアセスメントを実施していきたい。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	13	5	6	・ガイドラインに沿ってアセスメント項目を作成し、発達支援を適切に行えるように工夫している。また保護者面談を定期的に行い、児童発達管理責任者とクラス担当が一緒に面談を行い、連絡帳や電話などでご家族の困り感を共有し、対策を一緒に考えアドバイスを行っている。	・コロナにより地域交流ができなかった。今後少しずつ地域の保育園などと交流を持って行きたい。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	15	7	2	・6か月以内に行うモニタリングを通して計画に沿った支援が行われていたか、個別支援計画が適当であったか確認を行っている。	・日々の支援で個別支援計画を意識して支援に望めるように、担当児童の記録を読む時間を確保できるように職員に周知していきたい。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	18	5	1	・月ごとにクラス主任が集まり、各支援項目に沿ったプログラムを立案している。またクラスで話し合いや、各曜日リーダー同士話し合い、チームで活動内容の検討を行っている。	・その日の細かいプログラムの目標は各リーダーが考えている為、3か月毎にクラスの活動の目標を確認するような話し合いの時間を設けたい。

公表:令和4年3月30日

職員数 30名 回収数 24件 割合 80%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらともいえない		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			いいえ	いいえ		
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	19	5		・年間を通して様々な経験ができるように月毎に活動プログラムを設定している。また、状況に応じて適宜変更するなどの対応も行っている。	・課題分類表を作成し、発達段階ごとの課題の目標を確認できるようにプログラム化していきたい。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	13	11		・集団活動における個別支援を行っている。課題は集団に提示するが、利用児童の特性や発達段階に応じて個々の活動を調整している。	・個別支援を行うスペースがないため、計画的な個別支援は実施していないが午後の自由遊びの際に個別に支援する時間を工夫して確保していきたい。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	13	11		・送迎バスの添乗や面談職員を除いて、極力その日の活動内容の打ち合わせを各クラスで行っている。 ・朝出来ない時は、前日にリーダーがクラス主任に確認するなどの工夫をしている。	・送迎バスの添乗、保護者面談、係の打ち合わせなどで職員が揃わないこともあり、全員での打ち合わせは難しい状況であるが、週単位、クラス主任とリーダーで週初めに打ち合わせをするなど今後工夫をしていきたい。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	19	4	1	・各クラスで振り返りを行い、支援業務の確認する時間を確保している。	・日々の記録の入力の時間を振り返り後の検証(次回への支援にどう生かすか)や共有ができていないか、職員それぞれがどのように理解できたか、確認作業をしていきたい。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	20	4		・日々記録ができるように時間を捻出している。	・日々の支援の記録を支援の検証・改善につなげられるように重ねて工夫をしていきたい。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	22	2		・定期的にモニタリングを行い計画の見直し、再計画を行っている。	・必要に応じて計画の見直しを実施していく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	16	8		・児童発達管理責任者、クラス主任、担当職員、クラス担当職員等で担当者会議を行っている。	
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	12	12		・入園希望の児童の情報提供、地域の児童発達支援事業所、幼稚園との引継ぎ、連携を入園時、退園移行時に行っている。	・関係機関(児童発達支援事業所、幼稚園等)との連携は見学、情報交換を通して今後も深めていきたい。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	7	13	4	・現在受け入れはなし	
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	8	13	3	・現在受け入れはなし	
㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	21	3		・移行先との情報交換は密に行っている。		

公表:令和4年3月30日

職員数 30名 回収数 24件 割合 80%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
者との連携	②⑥ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	21	2	1	・小学校訪問し、引き継ぎを行なっている。	・小学校の様子や引継ぎ内容を職員間で共有できるように工夫していく。
	②⑦ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	14	3	・障害福祉課、子ども家庭相談課、児童相談所、医療機関と行なっている。	・他機関との連携を図り、支援方法や制度の共有を図っていく。
	②⑧ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	9	14	・コロナ禍であったため実施できず。	・地域の幼稚園、保育園と連携を図っていく。
	②⑨ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	11	12	1	・自立支援協議会への参加、こども支援部会の事務局を委託されている。	・テーマによって直接支援員も参加できるように職員体制を整備を行う。
	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	21	3		・保護者面談、連絡帳、電話、マチコミ、ホームページにてギャラリーへの写真添付、送迎時などを通して保護者との日頃の様子を伝え合う工夫をしている。	・日々の状況はクラス毎のマチコミにてお伝えをしている為、個々の様子は一週間に一回日々の様子を伝えるようにしている。タイムリーな状況を伝えることができていない。
	③⑪ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	5	17	2	・クラス担当による保護者面談、心理士による発達検査報告など子供の発達の傾向を伝え、発達のスモールステップを確認するように工夫している。	・今後ペアレントトレーニングのメンター育成を行っていく。
保護者への説明責任等	③⑫ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	12	12		・契約時に重要事項説明に沿って説明をしている。 ・運営規程を掲示している。	・職員に対して運営規程を周知徹底することで事業に対する理解を高めしていく。
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	17	7		・児童発達管理責任者による面談を行い、個別支援計画の説明を行っている。	・全職員が常にガイドラインを意識して支援できるように研修等を行う。
	③⑭ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	20	4		・保護者面談、連絡帳、電話、送迎時の伝達事項などから保護者の子育ての悩み把握し、タイムリーに対応できるようにしている。	・クラス担当以外の職員が受けた時の対応等や迅速な対応のための情報共有など対応方法を検討していきたい。
	③⑮ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	13	9	2	・コロナ禍であったがZOOMを利用して懇談会を行った。対面での懇談会ができるようになった際はグループトークを企画し、横のつながりを図った。	・卒園児の保護者を含めた親子交流会を検討していきたい。
	③⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16	7	1	・面談希望があった場合は迅速に日程調整を行い対応した。また連絡帳などで相談があった際には電話や臨時的な面談を行い対応した。	・時間調整が困難な保護者についてはzoomなどのツールを活用して支援を行う。
	③⑰ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	24			・園だより、献立表、課題表などマチコミ、ホームページにて周知した。	・コロナ禍であったため、年間行事予定を周知できなかったため、今年度から予定を周知していく。
	③⑱ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	24			・個人情報管理している箇所には鍵を設置するなどの対応をして、十分に注意している。	・ホームページの写真掲載等において同意書を使用し、確認を行っている。

公表:令和4年3月30日

職員数 30名 回収数 24件 割合 80%

事業所名:伊勢原市児童発達支援センターおおきな樹

	質問事項	はい	どちらともいえない		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			はい	いいえ		
	③⑨ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	16	8		・サイン言語の獲得に向けた支援、視覚支援、短い言葉での支援、聴覚障害の方への筆記伝達、手話、LINEなどの工夫を行った。	・外国籍の保護者の方への情報提供の方法について検討していきたい。
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	11	12	・コロナ禍により実施できず。	・コロナ等の状況を確認しながら検討します
非常時等の対応	④① 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	19	4	1	・各種マニュアルを作成し、発生を想定した訓練を重ねている。	・マニュアルの内容確認、定期的に確認し、時勢に応じて検討していき、職員、保護者の方への周知を徹底していきたい。
	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	23	1		・定期的に訓練を行っている。	・個人用に防災頭巾を用意してもらい小学校に行っても使用できるように支援します。
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	14	10		・入園時に予防接種、服薬、アレルギー等の確認を行っている。	・てんかん発作時の対応など研修を行う。
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか医師の指示に基づく対応がされているか	21	3		・医師の指示に基づく対応をしている。	・引き続き医師の指示書を基に対応を行う。
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	23	1		・毎日終礼にてヒヤリハットの報告を行い、リスクマネジメント委員会で事例の集計を行っている。	・ヒヤリハットの事例集を作成し情報の共有を図る。
	④⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	21	3		・虐待防止、権利擁護研修を定期的に行っている。声のかけ方、言葉の選択、複数支援など支援現場で常に意識して支援するように各職員が意識している。	・研修で学んだことを実践できているか検証を行う。
④⑦ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	9	16	1	・身体拘束が必要な児童がいなかったため、作成していないが、必要に応じて作成する。	・身体拘束の研修を行い、職員が関わり方の根拠を説明できるようにして行きたい。	

◎ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。